

彙 報

会 長 松 本 克 己

平成4年度第2回常任委員会

日 時：平成4年9月5日（土）午後1時半～6時

場 所：三省堂出版局

出席者：松本克己（会長）、角田太作（事務局長）、井出祥子、荻野綱男、崎山理、佐藤昭裕、長嶋善郎

オブザーバー：柴谷方良（編集委員長）、小泉 保（次期大会運営委員長）

議 事

（1）第105回大会（平成4年度秋季大会）について

講演者・研究発表者などの大会の詳細を決め、プログラムを決定した。

（2）第106回大会（平成5年度春季大会）について

明海大学で6月5～6日に開催する予定となった。

（3）その他

〈あ〉研究発表申込みのための要旨の書き方について

わかりやすい要旨の書き方を言語研究に載せる方向で検討した。

〈い〉SOASに対する抗議文について

会長名で抗議文を出したところ、Dept. of Phonetics and Linguisticsは閉鎖しない旨、回答があった。

〈う〉文部省科学研究費の審査員の選挙があり、土田滋・徳川宗賢両氏が当選

した。次点は柴谷方良氏だった。

〈え〉ケベックで行なわれた国際言語学者会議について

日本を代表して柴田武氏が出席した。次の委員会で口頭報告、および言語研究に報告を書いてもらうことになった。

〈お〉 雑誌の保管について

現在、三省堂の事務局で言語研究のバックナンバー各5冊を永久保存としているが、保管場所の問題があるので、2冊だけを保存しようという意見が出て、討議した。

また、日本言語学会にあてて送られてくる寄贈の雑誌・図書類をどう整理するかについても話し合いが行なわれた。

平成4年度第2回委員会

日 時：平成4年10月10日（土）午前10時～

場 所：関西外国語大学本館4階第6会議室

出席者：松本克己（会長）、村崎恭子、井出祥子、井上和子、梅田博之、荻野綱男、柴田 武、角田太作、南不二男、矢島文夫、湯川恭敏、阿部泰明、小泉 保、馬瀬良雄、笈 壽雄、近藤達夫、崎山 埋、佐藤昭裕、真田信治、柴谷方良、庄垣内正弘、杉藤美代子、成田義光、西光義弘、林 栄一、堀井令以知、菟 司郎、吉田和彦（以上29名）

委任状：33名

オブザーバー：土田 滋（会計監査委員）

議事に先立って、大会運営委員長小泉 保氏から挨拶があった。

議 事

- (1) 会長から第2回常任委員会について報告があった。
- (2) 第106回大会については、平成5年6月5日（土）から6日（日）に明海大学で行われること（大会運営委員長 大東百合子氏）が決定された。
- (3) 会長から、平成5年度科学研究費補助金の審査委員候補者の選挙が行われ、土田 滋・徳川宗賢両氏が当選したことが報告された。次点は柴谷方良氏だった。
- (4) 『言語研究』の永久保存の部数について検討し、今後三省堂の事務局で言語研究のバックナンバー各2冊だけを保存することにした。
- (5) 会長から、日本言語学会に対する寄贈図書・寄贈雑誌のうち現在までの分については東京外国語大学 AA 研に引き取ってもらうことで話がついた

という報告があった。また、今後の寄贈分についてもできるだけ AA 研に引き取っていただく方向で考えることにした。

- (6) 常任委員会で研究発表の申込みの採否を十分に審査できるように、研究発表に関する規定を改正することにした。また、「言語研究」掲載用の要旨には特殊な文字を避けることを追加することになった。
- (7) 柴田 武氏からケベックで行われた第 15 回国際言語学会議について報告があった。
- (8) 編集委員長の柴谷方良氏から『言語研究』の編集の経緯について報告があった。103 号まで順調に刊行予定である。100 号記念の別冊（目次と索引）についても秋に刊行できる。英文の論文については将来はフロッピーによる投稿も考慮する必要がある。
- (9) 会長から、神田外語大学での大会に際し余剰金が出て、日本言語学会に寄付されるとの報告があり、井上和子氏に対して感謝の意が示された。
- (10) 会長から、SOAS に対して日本言語学会会長名で抗議文を出したところ、Dept. of Phonetics and Linguistics は閉鎖しない旨、回答があったことが報告された。
- (11) 会長から、1993 年 1 月 8 日（土）9 日（日）に行われる第 7 回「大学と科学」公開シンポジウム「国際化する日本語——話しことばの科学と音声教育」に対して日本言語学会として協賛することが報告された。
- (12) 会長から、1992 年 11 月 28 日（土）29 日（日）に行われる津田塾大学主催第 5 回日本語シンポジウムに対して日本言語学会として後援することが報告され、承認された。
- (13) 日本言語学会の大会のプログラムを、現在のような活版印刷でなく、パソコンで出力してオフセット印刷することについて検討し、意見交換がなされた。

第105回大会

期 日 平成4年10月10日(土)・11日(日)

会 場 関西外国語大学

第1日(10月10日)

開会の辞 午後1時30分より

公開講演 京ことば

堀井 令以知

(関西外国語大学)

Quantitative studies and probabilities M. A. K. Halliday
in grammar (シドニー大学名誉教授)

会員懇親会 午後5時30分～7時30分

第2日(10月11日)

研究発表 午前10時～12時20分

○ A 会場

(A 1) 10:00～ 失語症における統語理解障害 阪 東 正 子
——受動文の理解について(A 2) 10:30～ 「する前に」と「しない前に」に関する 森 貞
認知言語学的考察

(A 3) 11:20～ 物語文のテクストにおける相対テンス 金 河 守

(A 4) 11:50～ 複文の従属度に関する考察 加 藤 陽 子
——主節のモダリティを中心にして

○ B 会場

(B 1) 10:00～ 日本語オノマトペのプロソディー 角 岡 賢 一

(B 2) 10:30～ 対人関係の修辞法としてのメタファー 彭 国 躍
——近代中国語の敬語の一形態(B 3) 11:20～ 聖書ヘブル語の主語に伴う目的語の標識 竹 内 茂 夫
'et について(B 4) 11:50～ 数量化理論によるエピテットの性格付け 浦 井 康 男
の試み ——ロシア語形態処理の発展

◦ C 会場

- (C 1) 10:00~ Tapping revisited: a prosodic approach 南 條 健 助
 (C 2) 10:30~ 日本語長音節の心理言語学的考察 寺 尾 康
 ——発話・理解の単位としての長音節
 (C 3) 11:20~ 日本語の VN—VN 複合語と統語編入 窪 祐 一 郎
 (C 4) 11:50~ 日本語複合動詞の項構造と意味構造 松 本 曜

研究発表 午後1時30分～4時20分

◦ A 会場

- (A 5) 1:30~ Boundedness and unboundedness 小 早 川 暁
 (A 6) 2:00~ 文比喩構造の分析と公式化 鍵 村 和 子
 ——語用論の視点から
 (A 7) 2:50~ 「働きかけ表現」に関する考察 坂 本 恵
 ——表現意図による分類から 川 口 義 一
 浦 谷 宏
 (A 8) 3:20~ 情報の出所 ——誰の情報か 村 山 康 雄
 (A 9) 3:50~ 「のだ」の基本概念と談話における機能 川 村 よ し 子

◦ B 会場

- (B 5) 1:30~ テンボ語の声調の逆転現象 梶 茂 樹
 ——フンデ語, パンツー祖語と比較して
 (B 6) 2:00~ ナンデ語における名詞アクセント変異の 湯 川 恭 敏
 環境
 (B 7) 2:50~ アルタイ諸語ならびに日本語のオノマト 山 崎 雅 人
 ペにおける母音交替について
 (B 8) 3:20~ ツングース語の「一致」について 風 間 伸 次 郎
 (B 9) 3:50~ 現代ウイグル語の人称表示と人称を表す 林 徹
 enclitic

◦ C 会場

- (C 5) 1:30~ 「AをBに(C)する」構文について 蔵 藤 健 雄
 (C 6) 2:00~ LFにおける格照合と束縛理論:日本語心 藤 田 耕 司

理動詞構文の一分析

- | | | | |
|-------|-------|-----------------------------------|-------|
| (C 7) | 2:50~ | 二重目的語構文の項構造 | 松原史典 |
| (C 8) | 3:20~ | 派生副詞と項構造の継承 | 高橋美智子 |
| (C 9) | 3:50~ | A problem with quantifier raising | 近松明彦 |
- 閉会の辞

◇ 受贈図書リスト (平成4年6月1日～11月30日)

- 英語教育における語彙理解の実態と問題点 ——発話動詞の分析——
 (独協大学英語教育研究会 1992)
- エスペラント研究 ——日本エスペラント学会紀要—— 創刊号
 (日本エスペラント学会紀要編集委員会 1992)
- 大阪女子大学蔵 蘭学英学資料選 (大阪女子大学 1991)
- 音声科学研究 XXV (京都大学音声科学総合研究部会 1991)
- 海外の日本語教育の現状 ——海外日本語教育機関調査・1990年——
 (国際交流基金日本語国際センター 1992)
- 記号学小辞典 (協阪豊・川島淳夫・高橋由美子編著) (同学社 1992)
- 計量国語学 18巻5号, 6号 (計量国語学会 1992)
- 研究紀要 第13巻 第1号 (鹿児島女子大学 1992)
- 研究報告集 13 (国立国語研究所 1992)
- 言語学研究 第10号 (京都大学言語学研究会 1991)
- 言語普遍性と言語類型論 (バーナード・コムリー著 松本克己・山本秀樹訳)
 (ひつじ書房 1992)
- 言語文化研究 第10号
 (東京外国語大学大学院 外国語学研究科言語・文化研究会 1992)
- 国語学 169, 170 (国語学会 1992)
- 国語学研究 31 (東北大学文学部『国語学研究』刊行会 1992)
- 国語表現研究 5 (国語表現研究会 1992)
- 国立国語研究所年報 平成2年度 42 (国立国語研究所 1991)
- 古代日本語動詞のテンス・アスペクト ——源氏物語の分析——
 (鈴木泰著) (ひつじ書房 1992)
- 婚姻改姓・夫婦同姓のおとし穴 (中村桃子著) (勁草書房 1992)
- 作新学院大学紀要 第2号 (作新学院大学経営学部 1992)
- 史苑 第52巻 第2号, 第53巻 第1号 (立教大学史学会 1992)
- 宗教研究 292 第66巻 第1輯, 293 第66巻 第2輯

- (日本宗教学会 1992)
- シンポジウム「言語と文化」 ——古典外国語のすすめ——
(愛知大学言語学談話会 1992)
- 聖隷学園聖泉短期大学 人文・社会科学論集 第9・10合併号
(聖泉人文・社会学会 1992)
- 調査報告集 13 (国立民族学博物館 情報管理施設 1992)
- 朝鮮学報 第百四十三輯, 百四十四輯 (朝鮮学会 1992)
- 通信 第74号, 75号
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1992)
- 展示会ガイド Vol. 24 (コンベンション・フォーラム 1992)
- 東京大学言語学論集 12 (東京大学文学部言語学研究室 1991)
- 東方学 第八十四輯 (東方学会 1992)
- 東方学会報 No. 62 (東方学会 1992)
- 東洋学文献類目 1989年度
(京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1992)
- 東洋学報 第73巻 第3・4号 (東洋文庫 1992)
- 都大論究 第29号 (東京都立大学国語国文学会 1992)
- 日本学術会議月報 第33巻5月～11月号 (日本学術会議広報委員会 1992)
- 日本語教育通信 第11号, 12号 (国際交流基金日本語国際センター 1992)
- 日本語教育論集 世界の日本語教育 第2号
(国際交流基金日本語国際センター 1992)
- 日本語国際センター紀要 第2号 (国際交流基金日本語国際センター 1992)
- 日本民俗学 189, 190 (日本民俗学会 1992)
- 函館英文学 XXXI (函館英語英文学会 1992)
- 二つ仮名・一つ仮名の音声 ——京都市, 島根県仁多郡横田町——
(久野マリ子, 久野眞, 大野眞男, 杉村孝夫著) *付, カセットテープ2本 (国学院大学日本文化研究所 編集代表: 久野マリ子 1992)
- 南琉球新城島の方言 (久野マリ子, 久野眞, 大野眞男, 杉村孝夫著)
(国学院大学日本文化研究所 1992)

- 民ぱく 6月～11月号 (国立民族学博物館 1992)
 山形女子短期大学紀要 第24集 (山形女子短期大学 1992)
 立命館 言語文化研究 4巻1号 (立命館大学国際言語文化研究所 1992)
 論集 50 (神戸大学教養部 1992)
 ArOr Vol. 60 1～3 (Academia Praha 1992)
 Bulletin No. 136 (The Linguistic Society of America 1992)
 Language Vol. 68 No. 2, 3 (The Linguistic Society of America 1992)
 Language and Literature Vol. 1 No. 1, 2 (Mick Short)
 (Longman Group UK Ltd. 1992)
 Lexicon No. 22 (岩崎研究会 1992)
 Litteratura 13 (名古屋工業大学外国語教室 1992)
 Mabadiliko ya Kijamii na Riwaya ya Upelelezi Tanzania (Eiko
 Kimura) (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1992)
 The Man'yo-shu Parts I, II, III (Teruo Suga)
 (佐野学園：神田外語大学・神田外語学院 1991)
 Naše řeč 2～4
 (Academia nakladatelství Československé akademie věd 1992)
 Slovo a Slovesnost LIII 1, 2
 (Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1992)
 Symposium 7 (ドイツ語学文学研究会 1992)
 A Universal Second Language: Preliminary Edition
 (Elmer Joseph Hankes) *with a sample roll of tape
 (The Hanks Foundation 1992)
 Mathematized Humanities via Humanized Mathematics
 (Vaclav Polak) (Davay 1992)

◇ 平成4年度秋の叙勲において、本学会会員 野元菊雄氏は、勲三等旭日中綬賞を受賞されました。本学会として、心よりお祝い申し上げます。

◇ 本誌は、文部省平成4年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。